




ESG情報開示研究会の概要（正会員入会ご希望者向け）

■ 私たちの考え

 Vision	私たちは社会の持続的な発展と、企業が自らの価値を高め成長することを調和させる仕組みを創造します。
 Mission	<ul style="list-style-type: none">効果的で効率的なESG情報開示のフレームワークの探究実践例（実証）の蓄積より良い意思決定に向けたステークホルダー間の相互理解の促進
 Values	<ul style="list-style-type: none">パートナーシップによって個では解決できない課題の解決に挑む。お互いに敬意を払い、多様性を尊重する。長期的かつ幅広い戦略的視点を持つ。

■ 実施要領

内容 : ESG情報開示のより良い在り方に関する調査研究と情報発信
場所 : 東京近郊 *現在リモート会議（ZOOM）で開催
会員数 : 113法人(2022年7月末時点)

■ 正会員

	内容
主な入会のメリット	<ul style="list-style-type: none">定期ミーティングや分科会、実証等への参加会員限定の催事への参加会員限定資料へのアクセス
会費	<ul style="list-style-type: none">入会金：無年会費：150万円（非課税。会期7月～翌6月[1年間]、途中入会可）
入会条件	<ul style="list-style-type: none">以下を満たす発行体、機関投資家(法人)であること。① 発行体は、経営者・自社のESG情報開示に取り組みられている部門に限定。（※営業目的での入会は固くお断りしています。）② 当研究会の会員規約に同意いただけること。







■ 分科会のご紹介（2022年7月末時点で募集中のもの、一部有償。）

分科会名	内容
開示フレームワーク研究分科会	海外における法制化の動向や、国内外上場企業の優良開示事例などに基づき、会員間で討議を行い、本研究会として蓄積した知見を報告書に纏める。 【これまでの成果物】「ESG情報開示研究会 活動報告書 2022 ～世界をリードする高質な開示と対話をめざして」(2022/6月発行)
統合報告書改善分科会	参加法人ごとに、統合報告書の改善について自由にテーマを設定し、そのテーマについて機関投資家や他の上場企業などに助言を求めることができる。また、専門家がコーディネーターとして改善活動の伴走をする。【参加費：135万円(税別)】
人的資本開示分科会	近年、注目の高まる人的資本の開示について国内外の優良事例紹介をしながら、機関投資家、上場企業経営者・IR部門、資本市場有識者による討議を通じて企業価値向上に繋げるための実践的な知見と相互理解を深める。 ※本分科会は(一社)HRテクノロジーコンソーシアムが運営。
S要素と財務数値関係性分析分科会	企業のS=人財への取組み(女性従業員率・離職率・メンタルヘルス・残業時間等)と従業員エンゲージメント、業績(財務指標)の3つの関係性を学術的アプローチで検証する。京都大学経営管理大学院・砂川研究室との協働分科会。

■過去の勉強会テーマ（抜粋）

登壇	テーマ
<ul style="list-style-type: none"> 世界経済フォーラム Ernst & Young 	ステークホルダー資本主義の進捗を測定～持続可能な価値創造のための共通の指標と一貫した報告を目指して～
公認会計士協会	企業情報開示に関する有用性と信頼性の向上に向けた論点の検討～開示とガバナンスの連動による持続的価値創造サイクルの実現に向けて～
WICIジャパン	非財務情報開示をめぐる欧州等の動き
<ul style="list-style-type: none"> 経済産業省 環境省 金融庁 	経済産業省より「サステナブルな企業価値創造に向けた経営と対話について」 環境省より「2050年カーボンニュートラルとESG金融の今後について」 金融庁より「ESG 情報開示を巡る金融庁の取組」
内閣府	企業の競争力強化に向けた知財等無形資産の投資・活用促進
在欧日系ビジネス協議会	EUサステナビリティ政策関連動向
BNPパリバアセットマネジメント	欧州サステナブル経済への道～最新の欧州動向と当社のサステナブル投資戦略～
りそなアセットマネジメント	ESG投資の潮流－長期投資家からみた期待と課題－
外国法共同事業法律事務所 リンクレーターズ	気候変動・ESGに関連する欧州等での最近の裁判および株主の積極的な行動の影響について
日本IR協議会	ESGに関するIR活動の進展～コーポレートガバナンス・コード再改訂を背景に
京都大学経営管理大学院	ESGPとCFP (ESG PerformanceとCorporate Financial Performance)

■参加企業の声

<p>ESGの第一線にいらっしゃる方々のご意見を伺うことができ、ESG情報開示のトレンドを把握できる</p> <p>— 製造業 — </p>	<p>統合報告書改善分科会では、日頃のエンゲージメントと異なり、複数企業と同時に意見交換ができ、お互いの理解を深める上で非常に良かった</p> <p>— 運用機関 — </p>	<p>様々な業種の実務担当者をはじめ、投資家、有識者の方々との意見交換、情報収集を行うことができる</p> <p>— 情報通信サービス — </p>
<p>勉強会のテーマが毎回ちょうど気になっていることで、スピーカーもプロフェッショナルで説明がわかりやすい</p> <p>— 製造業 — </p>	<p>業種や立場(事業会社/投資家)の違う参加者の皆様と意見交換することができ、自社の取り組み推進に活用できる</p> <p>— 金融 — </p>	<p>既に開示改善意欲の高い企業様が、更なる改善に向けた議論を行うことで、日本企業全体の開示底上げに繋がっている</p> <p>— 運用機関 — </p>

■お問い合わせ先

一般社団法人ESG情報開示研究会 事務局

株式会社日立製作所 サステナビリティ推進本部内[担当：増田、二見]

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 連絡先 contact-edsg@ml.itg.hitachi.co.jp